



## ■5/14「お日さま春まつり」参加報告 ～自然エネルギーのクイズでスタンプラリー～

5月14日 中野島中央公園で開催された「第5回 お日さま春まつり」～エコ・自然エネルギーにふれよう～に、生ビール販売で出店しました。たくさんのお店者と和太鼓等のステージ、親子連れの来場者で賑わいました。

再エネ関連の5団体が共催し、クイズに答えると粗品がもらえるスタンプラリーを行いました。専修大学の学生ボランティアさんの説明によって、自然エネルギーについて子どもたちにも関心を持ってもらう良い機会となりました。

また、7/11の「日本と再生」上映会のアピールも行いました。

副理事長 加藤伸子



5/14「お日さま春まつり」に出店

## ■5/28「公害フェスタ」と6/4「平和のつどい」参加報告 ～川崎の再エネ事情を紹介～

去る5月28日 溝の口駅前ペDESTリアンデッキでの「第23回公害・環境、健康、まちづくりフェスタ」と、6月4日 川崎市平和館での「平和をきずく市民のつどい」にパネル展示で参加しました。



5/28「公害フェスタ」パネル展示の前で  
(川岸、高橋、加藤、田辺、三枝、小川)

今回、川崎の再エネ事情の紹介に力を入れました。川崎には多くの発電所があります。臨海部の発電能力約630万kWは、一般家庭の消費電力一都三県（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）と同じです（全ての発電施設が最大出力で稼働した場合。世帯数約1575万世帯、使用電力約0.4kW/世帯・時で算出）。

一方、再エネ分野でも、2011年に日本で先駆けて、川崎区に「浮島太陽光発電所」（最大出力7千kW、年間約892万kWh、一般家庭約3,000軒分の年間使用電力）と、「扇島太陽光発電所」（最大出力1万3千kW、年間1,535万kWh、年間一般家庭4,200軒に相当）のメガソーラーを誕生させています。



しかし、市内の住宅用太陽光発電設備導入実績は、60,622 件、22,025kW で、この二つの発電所よりも整備容量が大きいのです。150 万都市川崎の太陽光発電設備導入量は現在約 7 万 kW。また、実際に太陽光発電所を作った市民団体が 3 団体あるのも特徴と訴えました。

同時に、当NPOも参加しているパワーシフト・キャンペーンを実施。原発や石炭火力に向かわせないためにも、「再エネを重視する新電力会社を選ぼう」と、再生可能エネルギー供給を目指す電力会社 22 社の一覧表を差し上げながら提案しました。

その中で、3 人の方々が自宅に太陽光パネルを設置、東電に売る方も買う方もしたくないと訴えられました。現在では新電力が余剰電気を買うことは難しいようです。

7月に開催するパワーシフト・キャンペーン全国大会には、10 数社の新電力会社が集まるので、この要望を各社にお伝えしたいと思います。

市の 2020 年度までに太陽エネルギー利用量目標「2005 年度比約 30 倍（約 9 万 2 千 kW）」に達するには、市民の力が鍵だと改めて感じました。



6/4「平和のつどい」でパネル展示

理事 高橋 喜宣

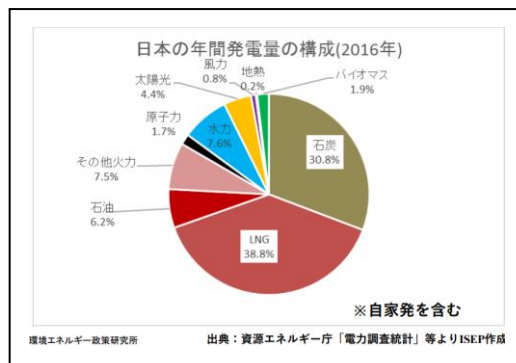
\*\*\*\*\*

## オピニオン

### ■再エネについて、自然環境の破壊の開発、植民地型開発に一定の歯止めを！

2012 年 7 月 FIT 制度が発効されて以来、再生可能エネルギー発電施設が急速に全国各地に設置された。その 9 割以上は太陽光発電が占めている。2016 年には日本は累積導入量でドイツを追い越して中国について世界第 2 位となる。再生可能エネルギーの発電量は 14.5%（2015 年資源エネルギー庁電力調査統計。7.1%の大規模水力を含む）だ。

しかし、開発に当たり、地元関係者の意向が無視されることもあって、景観や生活環境上の観点からメガソーラーなどの設置に対して全国的に反対運動がおきている。再エネ普及を目指す立場からも、「再エネは悪い」という風潮が広がることを避けなければならない。



### ■Loop 社の諏訪市四賀メガソーラー（仮称）計画における自然破壊



株式会社 Loop は「太陽光、風力、水力をはじめとする自然エネルギー。私たちは、このやさしいエネルギーをこれからの発電のスタンダードにしたいと考えています」と自然エネルギーを売りにしている新電力会社だ。

ところが自然破壊につながる開発を進めている。長野県の中央に位置する霧ヶ峰南麓の森林に、89MWの巨大メガソーラーを計画だ。皇居の面積に等しい計画面積 188ha の内、森林 106ha





を伐採し、ソーラーパネル 31 万枚を設置するというもの。工事によって発生する土砂は、10tトラック 5 万台分で、高さ 13m の調整池を設置して沢に流れる川に盛土をして埋める。この森林には、小さいながらも高層湿原があり、県のレッドデータリストにある高層湿原植生のミスゴケ群落として登録されている場所でもある。

そして 2016 年、地元住民は太陽光発電問題連絡会を立上げ、反対運動を開始した。

それに対しパワーシフト・キャンペーン実行委員会（当 NPO 法人も賛同団体）はその声に応え、他の団体とともに現地調査をした（著者も同行）。さらに内部で議論を重ね、同社を訪問し、意見交換をした後に中止を含めた再検討の要望書を渡した。Loop 社側も「アクセス方法書の段階でも、水害の恐れなど特に調整池の上に予定していた盛り土についてのご指摘は多く、我々としても見直しを検討している」と答えている。

結果としてパワーシフト・キャンペーン実行委員会が推薦する「再生可能エネルギー供給を目指す電力会社」から同社を外すことを決定。推薦基準の前提として、「大規模な生態系や自然環境・景観の破壊が行われておらず、持続可能性への配慮を十分に行っている発電所からの調達であること。（当該および周辺の自治体や住民）地域のおおかたの合意を得ていること」を付け加えた。

こうしたメガソーラーのトラブル事例は「現在は 60～70 件。そのうち何件かは、中止や協定書締結で解決している」（ISEP 調査）

さらにドイツでは 2013 年 3-7 月の改正（対象は太陽光発電のみ）で、2km 以内かつ同一自治体内の平地設置は 10MW までという上限を設けた。

それゆえ Loop 社のように森林伐採など環境破壊を伴う大規模な事業が続くと、太陽光発電事業が人々から支持されなくなり、再生可能エネルギー社会の実現は難しくなる。ドイツのように日本も制限を考えるべきだ。

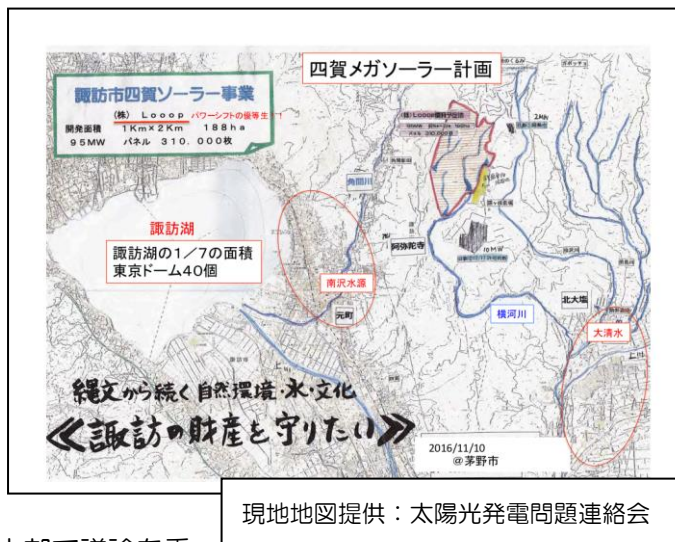
## ■植民地型開発の懸念に、地域市民の力を

太陽光はもともと地元のエネルギー。しかしその開発事業者の多くは、東京などの都市部に本社を置く企業で、その利益の大部分を都市部に持っていきいわば植民地（外来）型開発に占められている。

そもそも植民地とは何か。近代の歴史において、インド（ムガル帝国）、中国、中南米諸国が次々と植民地化された。経済学者の瀬戸岡紘氏は「鉄道建設に多額の借金をし、金を貸した国の圧力によって植民地化した」という。「鉄道建設資金を国内の資金だけ賄った国は、イギリス、フランス、ドイツと、そして日本くらいだ。外国の資金導入は極めて危険だ。日本の場合、女工に過酷な労働を強いた生糸を生産、輸出して外貨獲得。鉄鋼生産も技術も日本人の努力で獲得し、国内の資金だけで鉄道建設を成し遂げ、植民地化を免れた」。（戦後、新幹線だけは IMF から借りたが、東京オリンピック後にすぐに返した）これに似た植民地化構造が都会と地方の格差を増大している。その解決策を歴史から学べるのではないだろうか。

戦前、地方の電気を地元の出資金で発電する事業が日本各地で生まれたが、戦争によって強制的に統合されたという歴史もある。

自然環境の破壊の開発、植民地型開発に一定の歯止めをかけるのも、地元市民の力の結集が必要となろう。



理事 高橋 喜宣



## ■「日本と再生」上映会

～3号機 うしおだ診療所 建設決定記念～

- 7月11日(火) 午後 開催
- 川崎駅「産業振興会館」ホール

14:00 受付  
14:30～ 第1回上映会

16:40 受付  
17:00～ 河合弘之監督 講演

18:15 受付  
18:30～ 第2回上映会

当日券700円 (前売券500円)

原発ゼロ 市民共同かわさき発電所  
3号機 うしおだ診療所  
建設決定記念上映会

「日本と原発」河合弘之監督の最新作  
**日本と再生**  
光と風のギガワット作戦

監督 河合弘之  
企画 飯田哲也  
新垣 隆  
坂本龍一

14:30 第1回上映会 (開場14:00)  
17:00 河合監督講演 (受付16:40)  
18:30 第2回上映会 (受付18:15)

**7月11日(火)**

産業振興会館(川崎駅徒歩8分)ホール  
前売券500円 当日券700円

主催: NPO法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所  
URL: <http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>  
電話: 044-211-0121(川崎合同法律事務所川岸)  
共催: 公益財団法人・横浜勤労者福祉協会

## ■第3回総会のご案内



### 【第3回総会】

- 日時 6月25日(日) 13:30～15:00
- 場所 大山街道ふるさと館 3F 第2会議室

学習会【浜岡原発事故の神奈川への影響】

- 日時 6月25日(日) 15:15～16:45
- 場所 大山街道ふるさと館 3F 第2会議室

### 【編集後記】

当NPO法人は2014年7月に設立してから、もうじき丸3年を迎えます。1号機・2号機につづいて3号機の建設が決まったのも、みなさまからのご支援の賜と感謝しております。これからの活動を伸ばしていくためにも、みなさまにできるところでのご参加、発言をしていただきたいと願っております。まずは7/11の上映会にお越しください☆ (加藤伸子)

でん太通信は毎月15日に発行しています。

### ■NPO法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090-7948-6189 (川岸)

